

## 1120 | 絵画 III

3 単位（通信授業 1 単位、面接授業 2 単位）

三浦明範教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、袴田京太郎教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、清水健太郎講師、瀬島匠講師、松村繁講師、山本明比古講師

## 授業の概要と目標

A 系、B 系選択。

「自然と生命」をテーマに制作する。対象をじっくりと観察し、そこで得られた発見を基に制作を進めることが大切である。私達は自然を外側から観て描いているのではなく、自然の中にあり、その生動するリズムに反応している。

通信授業では、見る、感じる、考える、行う、といったことを通して、自分らしさの感じられる、生き活きとした表現を目指す。面接授業では、同じモチーフやテーマに対しての個々の表現の多様性を知ること重要である。

## 課題の概要

## ○通信授業課題

〈A 系〉「自然と生命」

1-1 人物（自分も含む）と植物、動物の組み合わせをクロッキーする。

1-2 人物（自分も含む）と植物、動物の組み合わせをデッサンする。

1-3 人物（自分も含む）と植物、動物の組み合わせを油彩で制作する。

〈B 系〉「自然と生命」

1-1 身の回りの自然や生命体を観察し、そこから様々な部分をクロッキー等により造形的要素として取り出す。

1-2 「1-1」で取り出した造形的要素を様々に構成し「1-3」のためのエスキースを制作する。

1-3 「1-2」をもとに平面作品を制作する。

## ○面接授業課題

〈A 系〉「自然と生命」

1-1 人物（ヌード）と複数の観葉植物を配置し、デッサンをする。B2 画用紙または木炭紙。描画材は鉛筆または木炭等。クロッキー・エスキース複数点、デッサン 1 点提出。

1-2 「1-1」と同じ組み合わせを油彩で制作する。支持体は 30 号キャンパス。

〈B 系〉「自然と生命」

1-1 人体（ヌード）、観葉植物、野外取材等から様々な部分をクロッキー等により造形的要素として抽出し、それらを構成してエスキースを制作する。支持体は自由で 30 号程度のフリーサイズ。描画材は自由でコラージュも可。2～3 点提出。

1-2 エスキースをもとに平面作品を制作する。支持体は自由で 30 号程度。描画材は自由（油彩、アクリル絵具他）。

## 授業計画

## [通信授業]

学習指導書『絵画Ⅲ～Ⅴ 平成 30 年度』の「絵画Ⅲ」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第 1 章「デッサン・油彩」、第 2 章「油彩画の素材・技法と表現」、第 3 章「水性絵具」等を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。

## [面接授業]

〈A 系〉	第 1 日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（クロッキー・エスキース）
	第 2 日	午前：制作（デッサン）	午後：制作
	第 3 日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評
	第 4 日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（油彩）
	第 5 日	午前：制作	午後：制作
	第 6 日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

〈B系〉	第1日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（クロッキー）
	第2日	午前：制作	午後：制作
	第3日	午前：制作（エスキース）	午後：制作及び採点・講評
	第4日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（平面作品）
	第5日	午前：制作	午後：制作
	第6日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

※学外見学第2日に実施予定（天候等によっては変更する場合あり）

---

#### 成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

---

#### 履修条件及び履修年次

[履修年次] 3年次

[履修条件] 「絵画Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（絵画コース3年次編入学生を除く）。

[備考] 油絵学科絵画コース3年次必修科目。

「絵画Ⅲ」、「絵画Ⅳ」、「絵画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

---

#### 教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

学習指導書：『絵画Ⅲ～Ⅴ 平成30年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

## 1130 | 絵画Ⅳ

3単位（通信授業1単位、面接授業2単位）

三浦明範教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、袴田京太郎教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、小島隆三講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、清水健太郎講師、瀬島匠講師、松村繁講師、山本明比古講師

## 授業の概要と目標

A系、B系選択。

「人と身体性」をテーマに、とくに表現の身体性ということに注目し制作する。古来人間の体は造形表現の主要なテーマとなってきた。私達は人体を通して様々な人間的な経験や感情を呼び起こす。又、人体は一つの生命体であり、それを描くことは私達の身体を通してなされる。それは、観念的な捉え方を突き崩し、新たな表現の可能性を模索する場でもある。

通信授業、面接授業を通して「人と身体性」をテーマに制作する。

## 課題の概要

## ○通信授業課題

〈A系〉「人と身体性」

1-1 二人の人物を組み合わせて描く。母と子、夫婦、兄弟姉妹、あるいは身近で見かけた二人の人物、会話する二人等を対象としてクロッキーする。

1-2 「1-1」のクロッキーや実際の対象をもとに二人の人物を画面構成してデッサンする。

1-3 クロッキー、デッサンや実際の対象をもとに油彩で制作する。

〈B系〉「人と身体性」

1-1 動いている人や動物等を対象に、動きを捉えるという意識でドローイングする。

1-2 「1-1」をもとに自分の手の動きなど、身体性から出る形を加えて構成し「1-3」のためのエスキースを制作する。

1-3 「1-2」をもとに平面作品を制作する。

## ○面接授業課題

〈A系〉「人と身体性」

1-1 固定ポーズの人物（ヌード）を2名配置し、クロッキー・エスキース、デッサンする。B2画用紙または木炭紙。描画材は鉛筆または木炭等。クロッキー・エスキース複数点、デッサン1点提出。

1-2 「1-1」と同モチーフを油彩で制作する。30～40号程度キャンバス。

〈B系〉「人と身体性」

1-1 固定ポーズやムービングポーズの人体（ヌード）から造形的要素を取り出すという意識でクロッキーする。そこに自分の、身体性から出る形を加え、エスキースを制作する。支持体は自由で30号程度のフリーサイズ。描画材は自由、コラージュ可。2～3点提出。

1-2 エスキースをもとに平面作品を制作する。支持体は自由で30～40号程度。描画材は自由（油彩、アクリル絵具他）。

## [通信授業]

## 授業計画

学習指導書『絵画Ⅲ～Ⅴ 平成30年度』の「絵画Ⅳ」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第1章「デッサン・油彩」、第2章「油彩画の素材・技法と表現」、第3章「水性絵具」等を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第1章「美術の成り立ち」等を参照。

[面接授業]

〈A系〉	第1日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（クロッキー・エスキース及びデッサン）
	第2日	午前：制作	午後：制作
	第3日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評
	第4日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（油彩）
	第5日	午前：制作	午後：制作
	第6日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評
〈B系〉	第1日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（クロッキー）
	第2日	午前：制作	午後：制作（エスキース）
	第3日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評
	第4日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（平面作品）
	第5日	午前：制作	午後：制作
	第6日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

---

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

---

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3年次

[履修条件] 「絵画Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備考] 油絵学科絵画コース3年次必修科目。

「絵画Ⅲ」、「絵画Ⅳ」、「絵画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

---

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

学習指導書：『絵画Ⅲ～Ⅴ 平成30年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

## 1140 | 絵画V

2単位（通信授業1単位、面接授業1単位）

三浦明範教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、袴田京太郎教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、小島隆三講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、清水健太郎講師、瀬島匠講師、松村繁講師、山本明比古講師

## 授業の概要と目標

A系、B系選択。

「素材と表現」をテーマに制作する。絵画において材料は、技法とともに、表現の成り立ち及びその空間構造とも密接に関連するものである。ここでは絵画は心や精神だけでなく、素材が重要な役割を持つことを知って欲しい。支持体や絵具、その他の素材の物質としての面白さを感じし、それらを積極的に取り扱うことによって、思いがけない効果が生まれ、表現の豊かさにつながる。

通信授業、面接授業を通して、素材と表現の在り方を制作することにより学ぶ。

## 課題の概要

## ○通信授業課題

## 〈A系〉「素材と表現」

1-1 質感の異なるモチーフを選び、それらを組み立てた静物を描く。ここでは絵具自体が物性を持つものとして捉え、その物質感（マチエール）を意識した表現を考えて制作する。また、普段使い慣れた油絵具とキャンバスに限らず、支持体や描画材などを工夫しても良い。

## 〈B系〉「素材と表現」

1-1 様々な素材（木材、布、合成樹脂、金属など）を貼り込んで構成した作品（実材構成作品）を制作し、更にこの作品をもとにした平面作品を制作する。

## ○面接授業課題

## 〈A系〉「素材と表現」

1-1 静物の組み合わせを配置した対象を、支持体や描画材などの素材を活かす工夫をして構成した平面作品を制作する。支持体は自由で30～40号程度、描画材は自由（油彩、アクリル絵具、水彩絵具他）。

## 〈B系〉「素材と表現」

1-1 材質感の違う様々な布類を中心に、他の素材を組み合わせで構成し、普段意識されなかった感覚を呼び起こすような平面作品を制作する。支持体は木製パネルで30～40号程度、描画材は不使用。

## 授業計画

## [通信授業]

学習指導書『絵画Ⅲ～Ⅴ 平成30年度』の「絵画Ⅴ」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第1章「デッサン・油彩」、第2章「油彩画の素材・技法と表現」、第3章「水性絵具」等を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第1章「美術の成り立ち」等を参照。

## [面接授業]

第1日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（平面作品）
第2日	午前：制作	午後：制作
第3日	午前：制作	午後：採点・講評

## 成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 3年次

[履修条件] 「絵画Ⅳ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備考] 油絵学科絵画コース3年次必修科目。

「絵画Ⅲ」、「絵画Ⅳ」、「絵画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

---

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

学習指導書：『絵画Ⅲ～Ⅴ 平成30年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）

## 1150 | 絵画 VI

3 単位（通信授業 1 単位、面接授業 2 単位）

三浦明範教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、袴田京太郎教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、小島隆三講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、清水健太郎講師、瀬島匠講師、松村繁講師、山本明比古講師

## 授業の概要と目標

A 系、B 系選択。

「空間と構造」がテーマとなる。絵画における空間は、人間の想像力の問題であり、民族や時代そして個人によってその在り方は多様である。感覚と観念、記憶と直感などのもとに、素材、構図、形態、色彩等の構造化された関係性の中から、絵画に固有の豊かな世界が立ち現われる。空間と構造の問題を意識することによって、絵画が単に描写力や色彩の美しさばかりで成り立つのではないことを知る。

通信授業、面接授業を通して、様々な空間の在り方を学び制作する。

## 課題の概要

## ○通信授業課題

〈A 系〉「空間と構造—断片の風景—」

1-1 日常ありふれた場所の中から美を発見する。視界を限定した「断片の風景」をもとにクロッキーする。また、場所を選んだ理由を 400 字程度で解説する。

1-2 「1-1」で見つけた対象をエスキースする。

1-3 「1-1」で見つけた対象を油彩で制作する。

〈B 系〉「空間と構造」

1-1 「風景」「静物」「人体」等を多視点的に様々な方向から捉え、クロッキーする。また、対象を選んだ理由を 400 字程度で解説する。

1-2 「1-1」をもとに「1-3」のための構成的クロッキーとエスキースを制作する。

1-3 「1-2」をもとに「記憶」や「想像」といった他の要素を加えて自由に構成し、多次元的な絵画空間をもつ平面作品を制作する。

## ○面接授業課題

〈A 系〉「空間と構造」

1-1 持参した資料やモチーフを基に、空間と構造を意識した制作をする。校舎内の取材も可とする。小エスキース複数枚と B2 以上の大エスキースを最低 1 枚制作する。描画材は自由。

1-2 「1-1」で制作したエスキースを基に、油彩またはそれに準ずる素材で制作する。支持体はキャンバスほか自由で 30～40 号の大きさ。

〈B 系〉「空間と構造」

1-1 体の部分を数箇所石膏取りし、それを B3 木製パネル上に構成して組み立てる。組み立てた立体を様々な角度から見てクロッキーする。B3 または F6～8 号の薄手の紙（クロッキーブック等）。立体作品 1 点提出。クロッキーは複数枚描きその中から 4 点提出。

1-2 「1-1」のクロッキーをもとに他の要素も自由に加え構成した平面作品を制作する。支持体は自由で 30～40 号程度。紙類の場合は B1 程度。描画材は自由（鉛筆、水彩、油彩他）。

## 授業計画

## [通信授業]

学習指導書『絵画 VI・VII/卒業制作 平成 30 年度』の「絵画 VI」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第 1 章「デッサン・油彩」、第 2 章「油彩画の素材・技法と表現」、第 3 章「水性絵具」等を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。

## [面接授業]

〈A 系〉	第 1 日	午前：前提講義及び制作	午後：制作
	第 2 日	午前：制作	午後：制作
	第 3 日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評
	第 4 日	午前：制作	午後：制作（油彩）
	第 5 日	午前：制作	午後：制作
	第 6 日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

〈B系〉	第1日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（石膏取り）
	第2日	午前：制作	午後：制作
	第3日	午前：制作（クッキー）	午後：制作及び採点・講評
	第4日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（平面作品）
	第5日	午前：制作	午後：制作
	第6日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

---

#### 成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

---

#### 履修条件及び履修年次

[履修年次] 4年次

[履修条件] 絵画コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.051の特例を除く）。

[備考] 油絵学科絵画コース4年次必修科目。

---

#### 教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

学習指導書：『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 平成30年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018年）



## 1160 | 絵画 VII

3 単位（通信授業 1 単位、面接授業 2 単位）

三浦明範教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、袴田京太郎教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、小島隆三講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、清水健太郎講師、瀬島匠講師、松村繁講師、山本明比古講師

## 授業の概要と目標

「自主制作」。造形的経験の積み重ねによって段々に自分の描きたいもの、描くべきものが明らかになってくるものであるが、ここでは卒業制作につなげるために、テーマや表現内容を更に掘り下げると共に、それをどのような素材でどのように表現して行くのか、自分自身の制作の方向性を明確にする。

通信授業、面接授業を通して、各自の「自主制作」のためのイメージ・デッサンやエスキース、素材研究等タブロー制作に入るまでのプロセスも重視する。

## 課題の概要

## ○通信授業課題「自由制作」

1-1 卒業制作を念頭においた「1-2」のための構想、エスキース、アイデア、テーマ、素材、写真、雑誌の切り抜き、メモ等あらゆるものを F10 号スケッチブックに書き込み、貼り込んだ「制作ノート」を作成する。

1-2 「1-1」で作成した「制作ノート」をもとに卒業制作の足掛かりとなる実験的な自主制作を行う。

## ○面接授業課題「自由制作」

1-1 通信授業課題で作成した「制作ノート」をもとに卒業制作を視野に入れ、さらに発展させたエスキースを制作する。支持体は自由（画用紙、木炭紙等）で B1 または倍判木炭紙大程度。描画材は自由。

1-2 「1-1」のエスキースをもとに自主制作を行う。支持体は自由で 40～50 号程度、描画材は自由。

## 授業計画

## [通信授業]

学習指導書『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 平成 30 年度』の「絵画Ⅶ」を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』の第 1 章「デッサン・油彩」、第 2 章「油彩画の素材・技法と表現」、第 3 章「水性絵具」等を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。

## [面接授業]

第 1 日	午前：前提講義及び制作	午後：制作（制作ノート・エスキース制作）
第 2 日	午前：制作	午後：制作
第 3 日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評
第 4 日	午前：制作	午後：制作（平面作品）
第 5 日	午前：制作	午後：制作
第 6 日	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

## 成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 4 年次

[履修条件] 「絵画Ⅵ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること（『学生ハンドブック』p.051 の特例を除く）。

[備 考] 油絵学科絵画コース 4 年次必修科目。

「絵画Ⅵ」を同時に履修する場合は、「絵画Ⅵ」のスクーリングを先に受講すること。

## 教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005 年）

学習指導書：『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 平成 30 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2018 年）